

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 たいよう 組	6 月 6 日 (金)	黒光美咲

● 実施計画

活動テーマ		
サイエンス ～天気～ 太陽の光であそぼう		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
・天気がテーマの実験を通して、太陽がある日にはなぜ雨が降らないのか、太陽とは何かなど、太陽の存在自体に興味をもっている姿が見られる。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
13:00～13:05	<p>・今までの天気の活動を振り返り、「晴れの天気は太陽が出ている天気だったね。」「晴れだとみんなの足元に何か現れないかな？」等と問いかけ、太陽の光で現れるものについて話し合う。</p> <p>・影について「影は見たことはある？どんな色？」「影ってどんなものだろう？」「大きさはいつも同じかな？」と問いかけ、考えたことを発表する。</p> <p>・今日は、影で遊んでいくことを伝える。</p>	<p>【環境設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 影遊びができそうな広く、日当たりのよい場所を調べておく。 ・ 実験に必要な道具を使いやすい場所に準備し、子どもたちが観察しやすい環境を整える。 <p>【準備物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 影に映して面白そうなもの ・ ボール、セロファン ※他、子どもたちが希望したもの ・ 画用紙 ・ はさみ
13:05～13:15	<p>・エントランスに行き色々な影を作って遊ぶことを伝える。「みんながエントランスで影を映したいものはなに？」「何をエントランスにもっていく？」と問いかけ、エントランスに持って行って影を写したいものを話し合う。</p> <p>・画用紙を好きな形に切って影を映してみることにする。「どの画用紙の色でどんな形に切る？」「それぞれの好きな色、形を作ってね。」と声をかけ、アイデアを提案し製作を援助する。【制作】</p>	<p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 影に映して面白そうなものを事前に準備しておく。 <p>【例】 ボール、セロファンなど</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 影で映して面白そうな形を画用紙で切って見本を作っておく。 <p>【製作】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 画用紙で好きな形に切る→ハート、星型、筒状にするなど
13:15～13:20	<p>・エントランスに移動し、実験を行う。実際にやってみる前に「どんな影が映るかな？」「何を映してみよう？どうなると思う？」「あとでみんなに聞くから教えてね。」と声をかけ、どんなふうに影が映るか予想し、発表する。</p> <p>・それぞれが色々なものの影を映したり、気づきを伝えたりする。ボールは、遊んでいる時と止まっている時の影の違いなど調べてみる。</p> <p>・「映してみたものがどんな形だったか教えてね。」「形が変わったりするかな？」「ボールを投げると、影を見ている人と交代してみる？」等と声をかけながら気づきが広がるようにする。</p> <p>・セロファンについては、影の色についても気づきが広がるようにする。</p>	

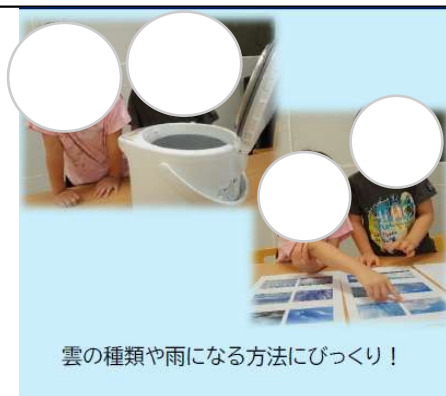
<p>13:20~13:40</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公園から戻ってから、どんな影ができたかそれぞれが発表していく。友達の意見を聞いて分かったこと、気づいたことも発表していく。 ・「どれを影に映してみた？」「映してみてもうだった？」「影は動いていた？止まっていた？」「影は何色だった？」「友達の発表を聞いてどうだった？一緒？違う？」等と問いかけ、発表が広がるようにする。 ・太陽が出ていない日、室内ならばどうなるか問いかける。 ・「晴れてない日は影はあるのかな？」「外ではなく、部屋の中には影はある？」「太陽がない夜だと影はあるかな？」「暗い部屋ならどうなるのかな？」「虹が見えている時、太陽はいるかな？」等問いかけ、活動の振り返りをするともに、次回プログラムにつながるようなまとめをする。 ・次回は、室内の中や、暗いとどうなるのか遊んでいくことを提案する。
--------------------	---

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<ul style="list-style-type: none"> ・天気について活動を行ってきたことを通して、太陽について子どもたちと学ぶ機会を作った。 ・今までの実験の経験や、実体験を通して、問いに対して子どもたちは自分の考えを自由に発表したり、友だちの意見に耳を傾けている。 ・子ども達の様子に合わせて気付きや発見に繋がるような声掛けを行っていった。 ・太陽の光と影を使って遊びを行う。次のプログラムにつながるような体験や気付きを行いながら、太陽についての知見を深めることができた。 	<p>【子どもの姿・声】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「影ってなんでできるんだろう？」「なんで画用紙だと色がつかないんだろう？」などの声があった。 ・大きさや濃さなどに注目して観察する子もいた。 ・活動の中で、子どもたちは自分の考えを積極的に発言しながら、他の子どもたちと意見を交わす姿が見られた。 <p>【保育者との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太陽の特性を感じられるよう、「雲がかかると影はどうなるかな？」という声掛けをし、光や影だけでなく天気についても注目できるようにした。 ・影を映す前に「どうなると思う？」と予想をたてる事で、より実験結果に興味を持てるようにしていった。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<ul style="list-style-type: none"> ・日々の自然の変化が、興味を引き出すきっかけになることに気づき、実験を通じて深めることができた。 ・予測と結果が異なることを楽しみながら、自然と触れ合い、特性を生かした遊びを展開しようとする姿が増えた。 ・これからも、身近な現象と結びつけながら、さらに子どもたちの疑問を引き出し、より深い探究へとつなげていけるよう工夫していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4回の探求ラボを通して自然(天気)について学んだが、なんでこうなるのという一つの疑問が実験することによって深くまで知ることができて良かったと思う。 ・今後の探求ラボを通じて、自分で発見や気付きに気付き、知りたいと思う気持ち、また実験(探求)してみようという意欲が育てるようにしていくと良いですね。



実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 たいよう 組	10 月 9 日 (木)	黒光美咲

● 実施計画

活動テーマ	
たべもの ～食べる～ 食べ物の旅マップを作ろう	
活動テーマに関する 日頃の興味関心について	
食べ物が畑や海など自然から生まれ、育てる人・運ぶ人・調理する人といった多くの手を経て自分たちの食卓に届くという「食べ物の旅」をイメージができ、マップづくりの活動への意欲につながっている。	
活動スケジュール	環境設定 ・ 準備物
時間	内容
9:30～9:40	・前回の活動を振り返る。 ・食べ物が食卓に届くまでの旅を作製するための作成方法や画材を話し合う。
9:40～10:15	・必要な用具を用意する。 ・完成のイメージをもちながら、製作を進める。
15:30～15:50	・作製した食べ物の旅マップを見ながら、活動を振り返る。 廊下に掲示する。
【環境設定】 ・調べたり、興味関心を深めたりできるように、図鑑やタブレットを活用できる環境を用意する。 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 ・正解を求めるのではなく、予想し考える態度を大切にする。	
【準備物】 ・食べ物の絵本 ・前回までの活動の記録 ・iPad、タブレット、PCなど(保育者が調べるために使用) ・子どもたちから必要と意見が上がったものを準備する。(例えば、クラフト用紙、絵の具、クレヨンなど) ・模造紙 ・のり ・色鉛筆	
【事前準備】 ・制作しやすいよう、作業スペースを設定する。	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<ul style="list-style-type: none"> ・前回の活動内容の振り返りから始め、子どもたちが自分の体験や気づきを言葉にすることで学びを整理し、次の探究への関心を高める。 ・必要な用具を用意し、完成のイメージをもちながら、製作を進める。 ・完成したマップを見ながら活動を振り返る。 	<p>【子どもの姿・声】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の活動で調べて得たことを思い出しながら、写真を貼ったり、絵や線を描いてつなげたりすることに夢中になっていた。 ・友だちと相談し合いながら「こっちが先だよ」「スーパーを通らないとお家に行けないよ」と順序を考える姿があり、食べ物の流れを自分なりに組み立てて表そうとしていた。 ・完成したマップを見ながら「たくさんの人が手伝ってくれてるんだね」「食べ物っているんなところから来ているんだね」と振り返り、調べたことを自分たちなりの言葉で再確認していた。 <p>【保育者との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「どこから始まるかな?」「このあとどうなるんだったかな?」と問いかけながら、子どもたちが前回調べた知識を思い出して製作に生かせるよう支援した。 ・表現をサポートしながら、一人ひとりの表現を認めていった。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<ul style="list-style-type: none"> ・前回の活動で調べた内容を、自分の手で表現することによって、子どもたちは食べ物の旅をより具体的に理解しようとしていた。 ・単なる知識の再現ではなく、友だちと相談しながら順序やつながりを考える姿から、学びを組み立て直す力が育ちを感じた。 ・完成したマップを見て達成感を味わいながら「食べ物は長い旅をして届く」「いろんな人が関わっている」と再確認する姿に、探究の成果を生活感覚に結びつけていることがうかがえた。 ・製作を通じて、子どもたちの理解が「調べて知ったこと」から「自分で表現できること」へと深まっていた。 ・できあがったマップを保護者にも見える所にも掲示したことで「子の料理ってね」と周りに発信していく姿にも繋がっていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちと相談しながら、食べ物マップを作るところは、とても子ども達の目がキラキラと輝き楽しそうでしたね。自分たちで作ったマップをみんなに見てもらいたいという思いもあり、廊下に掲示していた子ども達は自信に満ちた表情をしていましたね。



実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 たいよう 組	12 月 12 日 (金)	黒光 美咲

● 実施計画

活動テーマ		
アート～この絵どんな絵？～ 絵にはどんな種類があるの？		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
<p>廃材遊びを通して様々な廃材を使って作品を作ることを楽しんでいる。廃材だけでなく様々な素材を用意すると「〇〇はなにで作ろうかな」「これで〇〇がつくれそう」と見立てて作品をつくる様子もある。</p>		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:00～10:05	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の振り返りとして、絵画を見えるように準備し、お気に入りの絵画を思い出せるようにする。 ・絵を描く際に使う道具を問いかけながら、絵の種類について考える。 ・「絵の具やクレヨン以外に、どんな方法で絵を描くことができるかな？」と話し、絵画の多様性を伝える。 	<p>【環境設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが見やすい位置に絵画の種類やコラージュ作品の写真を掲示し、視覚的な参考にできるようにする。 ・子どもたちが材料を自由に選べるように、様々な素材を準備し、手の取りやすいように並べておく。 ・製作に集中できるスペースを確保し、作業しやすい環境を整える。 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 ・正解を求めるのではなく、予想し考える態度を重視する。 <p>【準備物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雑誌 ・英字新聞 ・パンフレット ・写真 ・糸 ・ビーズ ・モール ・はぎれの布など ・のり ・はさみ ・画用紙 ・セロテープ ・ボンド <p>※コラージュ作品の見本(12月1週目めい)を掲示するため</p>
10:05～11:20	<ul style="list-style-type: none"> ・コラージュ作品の写真を見せ、どんな素材が使われているかを考える。 ・「何が貼られているかな？」と問いかけながら、材料による表現の違いを発見する。 ・作りたいコラージュの内容を決め、どんな素材が合うかを考える。 ・用意した素材の中から自分の題材やイメージに合ったものを選ぶ。 ・それぞれのコラージュ作品を作っていく。 ・題材が決まっていな子はつりながら題名をを考え、切り貼りの工夫ができるようにする。 	
11:20～11:30	<ul style="list-style-type: none"> ・完成した作品を発表し、「なぜこの素材を選んだのか？」など質問し、作品への思いを発表する機会を作る。 ・「どんな工夫をしたのか？」を聞きながら、自分の表現について振り返る機会を作る。 ・絵は描くだけでなく、異なる素材を使って表現できることを振り返る。 	

・「次はどんなものを使って作品を作ってみたい？」と問いかけ、新たな興味を引き出す。

● 実施報告

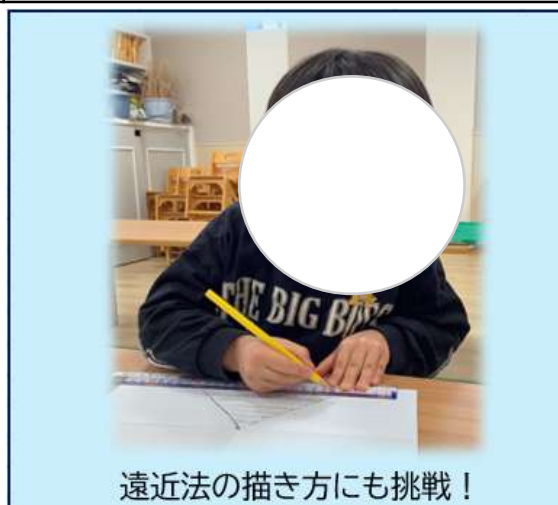
探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>・子どもたちは最初、コラージュの概念に戸惑いながらも、実際の作品を見たり考えたりすることで興味をもち始めた。</p> <p>・題名を決めてから製作を始める子と作りながらイメージを形にしていき題名をつけていく子もいた。</p> <p>・製作中には、「こういう素材無いかな！」「赤系を集めよう！」と、自分の表現を工夫しながら取り組む姿があった。</p>	<p>【子どもの姿・声】</p> <p>・「木の実とか果物でも色ができるんだね！」と新しい発見をする様子があった。</p> <p>・「新聞って黒と白だけじゃなくて色もあるんだね！」と素材の色や模様に着目する声が聞かれた。</p> <p>「この部分どうやってつくったの？」と多様な表現を認め合う姿があった。</p> <p>【保育者との関わり】</p> <p>「どんな題名にしたい？」と問いかけ、考えを引き出していった。</p> <p>・「この素材、どうして選んだの？」と意図を言語化できるようサポートする。</p> <p>・「色や形を工夫すると、もっとイメージに近づくかもね」と表現の幅を広げる関わりを行った。</p>

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>・子どもたちは、最初は「何を作ればいいのかわからない」と迷う場面があったが、コラージュ作品の例を見たり、素材に触れるうちに徐々にアイデアが浮かび、主体的に取り組む姿が見られた。</p> <p>・また、単に好きな素材を貼るのではなく、「題名に合うものを探す」視点が生まれ、目的意識を持って製作する様子が印象的だった。</p> <p>・今後は、異なる技法の作品を比較しながら、表現の選択肢をさらに広げる機会を設けていきたい。</p>	<p>・絵の技法やどの素材を使うなど、いろいろなことに触れることが出来て良かったと思います。</p> <p>・絵を描いたりするのは、平坦だけではなく何を使っても絵の作品になる事に興味を持つことにより、想像豊かに自分の感性で作品を作る事が楽しくなることでしょう。</p>



コラージュアートを体験！



遠近法の描き方にも挑戦！

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 たいよう 組	2 月 10 日 (火)	黒光美咲

● 実施計画

活動テーマ		環境設定 ・ 準備物
おかね ～おかねの使い方を考えよう～ おしごとをしてみよう		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
<p>前回の活動の振り返りで、「子どももお仕事ってできるの?」という問いが生まれ、その方法(働くこと、対価を得ること)に関心が高まっている。 日常生活の中で、家族が仕事に出かけ、そこでお金を得ている様子などから、「働くこと」と「お金を得ること」の関係性に興味を持ち始めている。</p>		
時間	活動スケジュール	環境設定 ・ 準備物
10:00~10:10	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の活動を振り返り、お金の量には限りがあること、どうすればお金がたくさん手に入るかを再確認する。 ・お金を得る方法について考え、意見をまとめる。 ・お金は「働くこと」や「何かをすること」で得られることを伝え、疑似体験につなげる。 	<p>【環境設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作り、一人ひとりの意見を尊重し、受け止める。 ・正解・不正解を明らかにするのではなく、多様な捉え方や考える姿勢・態度を大切にすること。
10:10~10:50	<ul style="list-style-type: none"> ・おしごとカードを提示して、内容を伝える。(例:おもちゃの整理、掃除など) ・やりたいおしごとを選んだり自分たちができそうなお仕事を探したりする。また、対価(模擬貨幣)を確認する。 ・おしごとを実践し、対価として模擬貨幣を受け取る。 	<p>【活動使用教材】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬貨幣(ポーカーチップ) ・おしごとカード(写真・イラスト) ・画用紙 ・筆記用具 <p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが取り組みやすい「おしごと」(例:おもちゃの整理、掃除など)の具体的な内容を提示したおしごとカードを作成する。 ・おしごとの内容によって、対価(模擬貨幣)に差をつけておく(例:難しいおしごとは対価を多くする)。
10:50~11:00	<ul style="list-style-type: none"> ・おしごとの体験で得た気づきや大変だったこと、お金を受け取った時の気持ちを発表する。 ・お金は「誰かの役に立つこと」や「価値のあること」の対価として得られることの理解につなげる。 ・集めた模擬通貨の枚数を数え、記録する。 ・目標に向かってお金を貯める「貯金」という方法があることを期待感を持たせて伝える。 	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>・導入では、「どうすればお金は手に入るか」について考え、子どもたちから「働く」「お手伝いをする」といった意見が出た。実施者から「働くこと」や「何かをすること」で対価としてお金を得られることを伝え、「おしごと体験」につなげた。</p> <p>・展開では、用意されたおしごとカード(おもちゃの整理、掃除など)以外にも自分たちで出来そうなお仕事を考え、子どもたちが自分でしたいおしごとを選び、事前に提示された対価(模擬貨幣)を確認した。おしごとを実践する際には、真剣に取り組み、「誰かの役に立っている」という実感を伴った対価として模擬貨幣を受け取っていた。</p> <p>・まとめでは、活動を振り返り、「おしごとは大変だったけど楽しかった」「誰かの役に立てて嬉しかった」といった意見や、「お金をもらえて嬉しい」という素直な気持ちが発表された。実施者との関わりを通して、お金は単に手に入るものではなく、「誰かの役に立つこと」や「頑張ったご褒美」の対価として得られることを理解した。</p>	<p>【子どもの姿・声】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対価を決める際「これは大変だからお金いっぱいもらえるよ」「これは年下の子でもできるからお金少なくていいね」と大変さの基準を自分たなりに考えて値段を決めていた。 ・おしごとを終えた後、「床ぴっかぴかになったよ」「みんなに喜んでもらえて嬉しい」など、お金を得ることだけでなく、「誰かの役に立った」ことへの喜びを言葉にしていた。 ・お金を受け取った時、「これでシールが買えるまで貯めよう!」と、お金を使うことへの期待を膨らませている姿が見られた。 <p>【保育者との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの発言は否定せずすべて受け止め、「なぜそう思ったのか」と深く問いかけ、働くことの価値や対価の意味を考えられるよう援助した。 ・おしごとの対価に差をつけることで、働くことには様々な価値があることに気づけるよう意識した。 ・おしごとをやり遂げたこと、誰かの役に立ったことを具体的に承認し、お金を得る喜びと働くことの意義を同時に感じられるよう配慮した。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>・お金を得る体験を通じて、子どもたちは「お金＝労働の対価」という概念を感じる事ができた。特に、「誰かの役に立つこと」「おしごとをやり遂げること」が、お金を得ることと同じくらい、あるいはそれ以上に喜びをもたらすという気づきは、働くことの意義を理解する上で非常に重要だと感じた。</p> <p>・おしごとの内容によって対価に差を設けたことが、「働くことには様々な価値がある」という気づきを生むきっかけとなり、子どもたちの探究心を深める上で有効だった。</p>	<p>・お金が自分のところに来るためには何をしたら良いのかが考えられたことは良かったと思います。</p>



仕事に対する対価を考えています



貯めたお金で好きなものと交換!